

国際交流・社会貢献等の概要

海外との協定等

- ・ハワイ大学宗教学部との協力に関する共同声明 2002.9
両者間の教員・学生の交流、研究、企画、会議の継続的協力
- ・中部イタリア神学学部との文化交流協定 2007.1
2005,2006年にお互いを公式訪問したことを機に文化交流を開始
教員・学生の受け入れ、ならびに宗教的文化的交流

国際学会・シンポジウムの開催

- ・高野山国際密教学術大会 (ICEBS) 2006.9.5-8 (於高野山大学)
創立120周年記念事業として開催。「密教文化の歴史と展望」をテーマに、
アメリカ・イギリス・中国等をはじめ海外12カ国の密教・宗教研究者約250名
が出席。 ※記録誌(非売品)は図書館等でご覧ください。

付. 静名誉教授が尽力して設立した空海研究会(1988～福建省)では
2010.4「第1回中国密教国際学術シンポジウム」(於中国・西安)を開催。
同教授は1984年「空海・長安への道」訪中団団長として福州(赤岸鎮)から西安
(青龍寺)までの2400キロを踏破。1988年に空海研究会を福州に設立。
2004「空海と日中文化交流国際学会」(上海・復旦大学)の開催にも尽力。
(日本人発表者の論文は『弘法大師空海と唐代密教』として公刊)

国際交流事業・海外調査 等

- ・チベット・バングラデシュの海外学術調査
- ・空海・長安への道 福州から西安を踏破
- ・イタリア・カトリック教の神父等との異文化交流
- ・外国人研究者招聘による研究会・講演会等
- ・学生参加型の交流事業
近年は、大学主催によるものよりも、現地とのコネクションを有する教員が、印度・唐・西藏・
糸綫之路(シルクロード)などの呼称で馴染み深い地域に密教・マンダラ・書道等の調査・
研究・見学で赴く場合に、学生を募集。
- ・ナムギャル僧院の僧侶による砂マンダラの作成
高野山大学創立125周年を記念して実施した「ダライ・ラマ法王招聘事業」に伴い、
砂マンダラ(金剛界マンダラ)の作成を見学・記録する目的で、ナムギャル僧院の僧侶
10数名をお招きした。砂マンダラは、2011年11月1日から2日にかけて、本学にて開
催された、ダライ・ラマ法王による「チベット密教 金剛界マンダラ灌頂」に用いられた。
(2012.3)
- ・ナムギャル寺前僧院長 チャト・リンポチェ師による金剛界法の伝授
高野山大学創立125周年を記念して実施した「ダライ・ラマ法王招聘事業」に引き続き
2013年5月7日から8日にかけて、ナムギャル寺前僧院長 チャト・リンポチェ師をお招
きし、ヨーガタントラに関する「六座グルヨーガ」の伝授及び金剛界法の伝授を、本学で
開催した。
(2013.5)

社会貢献活動

- ・各種生涯学習講座、伝統教学復興プロジェクトなど(21世紀高野山医療フォーラムは)
各事業の告知はHP、各事業記録はHP情報公開の各年度事業報告書を参照のこと。
教育・研究機関として、在学生のみならず、広く社会に生涯学習の機会を提供する
こと、社会に資する研究についてその成果を流布していくこと、先人より受けついで

文化についてその価値を再確認して継承・発展させていくことを大切な使命と心得て、各種の講座を開催しています。

- ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の発信
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する高野山、その歴史・文化等を研究・発信していくことも、国際交流につながるものとして教育・研究に取り組んでいます。
- ・高野山大学創立125周年記念事業「ダライ・ラマ法王招聘事業」
高野山大学創立125周年記念事業として、チベット仏教の最高指導者、ダライ・ラマ法王14世をお招きした。大阪市 舞洲アリーナならびに高野山大学松下講堂黎明館にて、2011年10月30日から11月3日までの期間、講演会やチベット密教の灌頂、さらには科学者や本学学長との対談など、多岐にわたるプログラムを催した。4日間で総勢8,000名(延べ人数)の方が参加された。
この時の講演会の模様は、『傷ついた日本人』(新潮新書462、2012年4月)として、出版されている。

(2012.6)

- ・東日本大震災ボランティア活動
平成25年9月6日～9日:辻雅榮足湯隊、南三陸町、職員1名・学生3名
- ・秋の交通安全運動ボランティア活動
平成25年9月20日:和歌山県警、高野山金剛峯寺前、職員1名・学生2名

大学間連携

- ・コンソーシアム和歌山
和歌山県下の高等教育機関が連携して各種事業を実施しています。
<http://www.consortium-wakayama.jp/>
- ・京都・宗教系大学院連合(K-GURS)
K-GURSは、宗教の多元化が進行する中で、京都を中心とした宗教系大学の大学院が、それぞれの宗教や宗派の特色を生かした教育プログラムを展開し、次世代の宗教研究者、宗教指導者、宗教に関するプロフェッショナルとなる人材育成を行い、研究上の相互交流を図ることを目的としています。また、京都を中心に形成された、このような学術ネットワークを広く世界にオープンにし、国際社会との学術交流を促進する目指しています。
<http://www.kgurs.jp/>
- ・過年度実績(一部)
和歌山大学が代表となって県下高等教育機関が連携した「大学改革推進等補助金戦略的学術連携支援事業 観光を主軸とした知の拠点形成のための戦略的学術連携」に参画。(H20～22年度)
京都・嵯峨芸術大学との間で両部曼荼羅制作にかかる共同研究。(H20～H22)

産学官連携

和歌山県立医科大学が代表となった「平成20年度低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」に参加(H20)しましたが、本学独自に産業界と連携した企画はありません。(2013.9現在)